

Quality is more than a word



# CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2014

## 編集方針

- エスペック株式会社の発行するCSRレポートは、当社が果たすCSR(企業の社会的責任)の考え方と活動についてステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的にしています。
- 本誌では、ステークホルダーのみなさまや社会の関心が高く、なおかつエスペックにとって重要な取り組みから内容を選択して企画・編集しました。特に重要と考える取り組みについては特集ページにて取り上げました。また、最近の主なニュースをご紹介しますページを新たに設けました。
- 企業活動の報告に関しては「CSRマネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3部構成としています。
- 当社ホームページ上でも関連情報を開示しています。  
エスペックホームページ：<http://www.espec.co.jp/>
- 経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料をご覧ください。

## 対象範囲

### 【事業所の対象範囲】

エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、すべての項目についてカバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

### 【対象期間】

主に2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)を対象期間としていますが、一部2014年度の活動についても掲載しています。

## 参考にしたガイドラインなど

- ・ 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ・ 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・ GRI(Global Reporting Initiative)  
「GRIガイドライン第3版(Sustainability Reporting Guidelines version 3.0)」

## 発行時期

毎年10月

## CONTENTS

THE ESPEC MIND (企業の価値観)	02
TOP MESSAGE	03
ESPECの事業	05
ESPEC NEWS	07
特 集	
1 「科学技術で社会に貢献する」を实践 島津製作所の品質を支える 「クオリティセンター」を訪問	09
2 微生物が環境やエネルギー問題を解決に導く 立命館大学 今中研究室を訪問	11
CSRマネジメント	13
社会性パフォーマンス	
お客さまとのかかわり	15
従業員とのかかわり	17
取引先さまとのかかわり	20
株主・投資家さまとのかかわり	21
社会とのかかわり(社会貢献)	23
環境パフォーマンス	
環境マネジメント	25
環境に配慮した製品	29
環境に配慮した工程	31
社会からの評価	32
事業活動のマテリアルバランス	33
実績データ	34
環境会計	35
会社概要	36

創業当時から脈々と伝わる大切な価値観を  
THE ESPEC MIND として体系的に取りまとめ、  
あらゆる意思決定や活動の指針として企業活動を行っています。

#### 起点

### 公器として、より良い価値交換を目指す

#### 企業が存在理由

そもそも企業とは公器であり、人々や社会の期待に応えるために存在するものです。エスペックも同様、「より確かな生環境を提供すること」を社会的使命として存在しています。さらに、ステークホルダーとの価値交換をより良いものにしていくことが社会的装置としての価値を高め、人々の幸せ実現の一助となると当社は考えています。

#### 使命

### 環境創造技術でより確かな生環境を提供

#### エスペックが追求すべき永遠のテーマ

エスペックは「環境創造技術」を核とする事業で、「より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。生環境とは、すべての生き物が生きていくための環境、あるいは目的を持って作られた機器がその機能を十分発揮できる環境のことです。生環境という言葉は私たちが自らつくり出した言葉です。それはエスペックの事業が独創的であるからにはほかなりません。

#### スタイル

### プログレッシブ

#### ミッションの実現に向けた企業姿勢

エスペックの企業活動のあるべき姿、それは「プログレッシブ（進取的）」です。かつて先達が「環境試験器」という言葉もない時代にそのニーズを察知し、事業のかなめとしたように、プログレッシブであることは当社が大切にしてきた企業姿勢であり、次代に受け継ぐ伝統でもあります。プログレッシブと共に、リライアブル（誠実な）、オープン（開放的な）、フェア（公正な）といった企業姿勢も大切にしています。

#### 宣言

### エスペックが社会に約束すること

#### 良き社会の一員としての誓い

企業活動の範囲が拡大するなかで、順守すべきものや尊重すべきものが明確になってきました。それらは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」です。例えば、「遵法」という考え方において、私たちは法を犯さない範囲であれば何をやってもいいという訳ではありません。法の上に社会的な良識や人々の考えといったものがあり、当社はその領域で活動を行います。また、国や地域が異なれば倫理規範などの解釈に違いがみられることがしばしばあります。その場合はより社会性が高い活動を選択することとしています。「文化」「人権」「環境」「啓発」においても同様に、これらの事柄を積極的に守り、育てる決意を「宣言」というかたちで社会に表明し、実践しています。

## ステークホルダーのみなさまへ

エスペックは、企業理念「THE ESPEC MIND」に基づき「環境創造技術」を核とする環境試験事業を世界各地で行っています。最先端技術の開発に役立つ存在であり続けること、事業を通じて持続可能な社会づくりに貢献することを目指しています。

地球規模でエネルギー消費量が増加するなか、当社においてもCO<sub>2</sub>排出量の削減は大きな課題と捉えています。2013年度は第6次環境中期計画(2014年~2016年)を策定し、省エネ製品の創出を継続するとともに、低炭素社会に貢献するエネルギーデバイス(二次電池・パワー半導体・太陽電池)市場の製品やサービスの強化を目標に掲げました。生物多様性では、従来の研究・教育を中心とした取り組みから、さらに「地域の協働保全活動への貢献」へと拡充してまいります。2014年3月には当社の「独創性と自立性」、「世界トップシェア」などグローバルな活動実績が評価され、経済産業省による「グローバルニッチトップ企業100選」に選ばれました。今後もグローバル企業として高い信頼を得られるよう一層の努力をしてまいります。

また、ダイバーシティの推進では、特に女性リーダーの育成に注力しています。女性の活躍の場を拡げ多様性を活かすことで、より創造性を発揮できる活力に満ちた職場づくりを目指してまいります。

当社は、これからもさらなる成長を図り、より良い社会づくりに貢献できるよう努力してまいります。

2014年10月

代表取締役社長

石田 雅昭





神戸 R&D センター内「バンビの里」にて

# ESPECの事業

企業には自ら選択したテーマで社会に貢献する責任があります。

エスペックは「環境創造技術をかなめとした事業で、より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。環境試験器のパイオニアとして半世紀にわたり、先端技術の発展と信頼を支え続けています。

## 環境試験の総合ソリューション

私たちの生活は、最先端の技術を駆使した製品や電子機器に支えられています。新技術が次々と組み込まれ、製品はより高度化し、複雑化しています。こうしたなか、製品や部品の信頼性を確保する環境試験の重要性はさらに高まってきています。当社は、先端技術の発展に欠かすことのできないこの分野において、試験装置の

提供、受託試験、そして装置のメンテナンスはもちろん、製品レンタルなど環境試験の総合ソリューションを提供しています。私たちの事業領域は広く、自動車や電子部品、医薬品、食品のみならず、二次電池や太陽電池などグリーンテクノロジーの分野にも及んでいます。

### ● 環境試験装置

温度・湿度・圧力・振動など環境因子を人工的に再現し、工業製品の信頼性や耐久性を確認する環境試験器を、多様な用途に合わせて豊富な製品群で提供しています。



恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ

### ● グリーンテクノロジー関連装置

二次電池、パワー半導体、太陽電池など、環境やエネルギー分野における先端技術の課題解決に貢献する試験装置を提供しています。



二次電池評価用  
アドバンスト  
バッテリーテスター



パワー半導体評価用  
パワーサイクル試験装置



太陽電池評価用  
大型温湿度槽 FMシリーズ

### ● 受託試験サービス

お客様の試験の設計・実施から分析・評価、結果に対する報告、提案までトータルなサービスを提供しています。



### ● 半導体関連装置

半導体などの電子部品に高温で電圧・電流のストレスを与え、短時間で不良品を見つけ出すバーンイン装置を提供しています。

### ● 計測システム機器

パワー半導体などの電子部品の性能を評価するために、試験の条件設定から試験の評価・分析を自動的に行うシステム機器を提供しています。

### ● 医薬品、食品用機器

医薬品や食品などの品質管理に使用される安定性試験装置を提供しています。

### ● 植物工場事業

無農薬で安心な野菜を計画的に栽培できる植物工場を提供しています。環境創造技術を駆使した植物工場は、食の安全が懸念されるなか、国内だけでなく海外でも注目されています。

### ● 自然環境の復元・創造事業

日本由来の植物を植える自然の「森づくり」、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」など生態系という視点から自然環境を復元し、創造する事業を行っています。



● グループ企業  
● 海外販売ネットワーク

### グローバルな総合力

当社は、環境試験市場で高いシェアを誇り、優れた品質と技術力で世界中のお客さまから高い信頼を得ています。お客さまのニーズをできるだけ深く追求し、それに応えると同時に、お客さまの創造性をさらに高めるサービスの提供に心がけています。当社は、こうした努力が当社を世界から信頼されるブランドに育てるのだと確信しています。

さらに、世界各国に9つのグループ企業と販売ネットワークを設置し、世界中のお客さまにクオリティの高い製品やサービスをお届けしています。グローバル企業として国際社会においても、より信頼される企業となるよう取り組んでいきます。

- 国内代理店 **48**社
- 海外販売ネットワーク 43カ国 **33**社



本社(大阪市)



上海愛斯佩克環境設備 有限公司



ESPEC KOREA CORP.



ESPEC NORTH AMERICA, INC.

### 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司が操業を開始

2014年3月、中国広東省広州市に位置する新会社「愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司」が操業を開始しました。建屋面積は、エスペックグループのマザー工場である福知山工場(京都府)に匹敵する規模を誇り、最新の生産設備と高度な生産技術を導入し、高い生産能力を備えています。今後は中国のみならず、東南アジアへの輸出も視野に発展させていきます。



会社名：愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司  
 総面積：28,579m<sup>2</sup>  
 工場面積：17,854m<sup>2</sup>

## 「グローバルニッチトップ企業100選」に選定

2014年3月に、当社は経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。「グローバルニッチトップ企業100選」は、グローバルに事業を展開し、特定分野で世界シェアの高い製品を製造・販売している優良企業を認定・顕彰するものです。認定企業の

経験が先行事例としてこれから海外での事業拡大を目指す企業の羅針盤となることが期待されています。選考にあたっては、①世界シェアと利益の両立、②独創性と自立性、③対外リスクへの対処、④世界シェアの持続性などが評価されました。



## コンパクト&高性能 「小型環境試験器」を発売

2013年11月に、コンパクトさと高性能を両立した当社の主力製品のひとつ「小型環境試験器」を新たに発売しました。新製品は、自由な組み合わせで装置や周辺機器を配置できるほか、計測器との連動機能、パソコンからの遠隔監視・操作機能などによりお客さまの環境試験のしやすさを一層追求しました。



小型環境試験器

## 国際基準に適合 医薬品向け安定性試験装置を発売

医薬品はその品質保持特性を確認するため、「安定性試験」という長期間の温湿度試験が行われています。2014年5月、この試験を行うことのできる「安定性試験器/安定性試験室」を計9機種発売しました。すべて国際的な製造・品質管理基準に適合しており、精度の高い試験を行うことができます。



安定性試験室

## 福知山工場 操業40周年記念行事を開催

2014年8月、当社福知山工場(京都府)において工場の操業40周年記念行事を開催しました。

「Nexus(つながり・結びつき)～エスペックの礎となるモノづくり文化をより良くしよう～」をテーマに、お取引先のみなさまをはじめ、従業員やそのご家族など約530名が参加しました。当日は、式典や工場見学、チャリティバザー、屋台などを行い、記念すべき節目を迎えられた喜びを全員で共有するとともに、次の50周年に向けてさらなる工場発展への決意を新たにしました。この記念行事にあわせて、従業員やそのご家族をお招きし、見学会を開催しました。夏休み期間中ということもあり、お子さまをはじめ170名以上の方々にご参加いただき、工場・歴史館見学のほか、実際に製品を動かして環境試験を体感していただく体験会を実施しました。



従業員ご家族の工場見学



チャリティバザーを開催  
ここでの収益金は、宮城県気仙沼市役所へ全額寄付しました

## 福知山工場のご紹介

1974年に操業を開始した福知山工場は、環境試験器の生産能力で世界No.1を誇るエスペックグループのマザー工場です。受注と生産をリンクさせながら多品種少量生産が効率的に行える生産ラインを確立しています。7棟の工場と事務棟のほか、歴代の製品を展示したエスペック歴史館「P<sup>3</sup>(Pキュービック)」、太陽電池パネルを設置した「福知山研修センター」、いちご栽培用植物工場「ストロベリーファクトリー」など、ユニークな施設を備えています。



### ■福知山工場概要

所在地：京都府福知山市長田野町1-7  
操業：1974年  
総面積：54,822m<sup>2</sup>  
工場面積：18,039m<sup>2</sup>

## 「科学技術で社会に貢献する」を实践 島津製作所の品質を支える 「クオリティセンター」を訪問

1875年(明治8年)に創業し、1909年(明治27年)、日本初の医療用X線装置を開発された株式会社島津製作所。科学技術で社会に貢献するという理念のもと、現在は分析・計測、医用、航空、産業機器の4つの分野で事業を行われています。2013年12月、世界中で使用される島津製品の品質拠点として「クオリティセンター」を開設されました。同施設では、信頼性評価のためにエスペックの試験装置を多数ご使用いただいています。



### ▶ 京都市の本社三条工場内に開設された「クオリティセンター」について教えてください。

島津グループの製品の品質を確保し、全世界のお客さまに安心で快適な製品をお届けするための施設です。当社製品の信頼性や耐久性を評価する設備や、万一製品に問題が発生した場合の原因究明に必要な評価・解析設備や機能を集約しました。

### ▶ 品質向上にむけて「クオリティセンター」ではどのような取り組みをされていますか。

クオリティセンターでは、「EMC測定」「精密測定・計測器校正」「材料分析・試験」「信頼性評価」「ユーザビリティ評価」「安全性評価」の6つの機能で品質向上に取り組んでいます。新たに大型電波暗室1室と小型電波暗室2室を設置したことで、自社内でEMC(電磁両立性)規格に定められた試験が、効率よく行えるようになりました。例えば「携帯電話の電波で島津製品が勝手に動き出したりしないか」「島津製品をたくさん並べてもそれぞれの電磁波の影響で勝手に動き出したりしないか」という環境を想定して試験を行います。世界各国で定められた規格に応じた試験を行っていますが、我々が目指しているのは当社独自の品質を確保することです。

### 取材にご対応いただきました 株式会社島津製作所 CS統括部のみなさま



CS統括部長 黒田 晋一様



CS統括部 商品技術グループ  
グループ長 石原 二郎様



CS統括部 商品技術グループ  
担当課長 畝本 あい子様



CS統括部 商品技術グループ  
主任 佐藤 誠様

CS統括部の役割は、世界中で使用される島津製品の品質やブランドを支えること。まさに“縁の下の力持ち”という役割を担われています。安全性評価に加えて、製品マニュアル全般をご担当の畝本担当課長は、女性活躍推進のリーダーとしてもご活動中です。

▶ 島津製作所様といえば医療用X線装置が有名です。どのような環境でも正常に機能しなくてはなりません。が、厳しい信頼性評価を行っているのですか。

医療用X線装置の信頼性試験ではエスペックさんの恒温恒湿室を使用し、お客さまのもとで「確実」「正確」に機能し続けることを確認しています。最近では医療機器が使用される環境は空調の整っている良い状態とは限りません。低温低湿といった機器の誤動作が起りやすい場所で使用されることも多くなっています。このため、砂漠のような乾燥した状態から高温多湿な状態を再現できるエスペックさんの試験装置を導入して機能を確かめています。また、輸送時や輸送保管環境も従来よりも厳しい条件を想定した試験を行っています。

#### 回診用X線撮影装置の試験の様子



島津製作所の回診用X線撮影装置。バッテリーで駆動するため電源インフラが破壊された被災地でもX線撮影が可能です。東日本大震災の際、福島県に10台寄付されました。試験室内を砂漠のような環境や高温多湿な過酷な状態にし、X線を発生させながら試験を行います。ステンレス内装の試験室はエスペックの恒温恒湿室ビルドインチャンバー。試験室外装にX線遮蔽を施しています。

▶ 人命に関わる医療機器の分野でも、当社の環境試験技術が役立っていることはとても光栄です。他にも当社の製品をご使用いただいていますね。

エスペックさんの恒温恒湿器を小型から大型装置まで設置し、試験内容に応じて使用しています。エスペックさんの装置は何十年も使用していますが、故障しないので滞りなく試験ができます。環境試験器のパイオニアで業界トップメーカーの製品を選ぶことは試験する側としても安心感があります。営業や技術の方が誠実であることも信頼できます。

#### 環境試験の様子



製品や部品にさまざまな温度や湿度の負担をかけて、どれだけの耐性があるかを確認します。試験器はエスペックの恒温恒湿器プラチナスJシリーズ(上)。冷熱衝撃装置、ライトスペック恒温器(下)。

▶ これからも当社は科学技術や最先端技術の発展のお役に立ちたいと考えていますが、当社へのご期待をお聞かせください。

新しい技術や製品が開発されるに従い、それらの課題解決のための新しい試験が必要になってきます。エスペックさんには、新しい試験方法の研究開発や新しい試験装置の開発を期待しています。また、エスペックさんの試験ノウハウを我々に提供できるセミナーや勉強会も開催し、信頼性分野の第一人者としてリーダーシップを発揮していただきたいです。

#### 株式会社島津製作所

##### ■ 会社概要

創業：1875年(明治8年)  
本社：京都市中京区西ノ京桑原町1番地  
連結売上高：3,075億円  
連結従業員数：10,612名

## 微生物が環境やエネルギー問題を解決に導く 立命館大学 今中研究室を訪問

当社は、1997年に「公益信託エスペック地球環境研究・技術基金」を設立し、地球環境保全に関する研究や技術開発などに資金援助する活動を行っています。同基金の設立時から現在まで、運営委員長としてご協力いただいています立命館大学生命科学部の今中忠行教授にお話しを伺いました。



▶ エスペックの地球環境研究・技術基金は、1997年の創業50周年記念事業として設立し、今年で17年目を迎えます。今中教授には設立当初からご指導いただき誠にありがとうございます。

地球環境問題の解決には幅広い知識と知恵、地道で継続的な取り組みが必要

エスペックさんの同基金の設立は、非常に素晴らしい考え方で始められたと思います。21世紀は環境問題を抜きにしては考えることはできないという国際的な認識をしっかりとっておられたと思います。環境問題は、物理学や化学、生物学的な側面、経済や法律、国家レベルの政治にも関係する非常に幅広い分野です。このため研究のターゲットが非常に絞りにくく、研究費の申請も難しい分野ですが、エスペックさんの継続的な研究支援はとても意義深いことです。このような地道なサポートがやがては研究者のすそ野を広げ、環境問題の解決につながると考えています。



### ■ エスペック地球環境研究・技術基金審査委員

今中 忠行	立命館大学 生命科学部教授 京都大学名誉教授
大政 謙次	東京大学大学院 農学生命科学研究科教授
佐山 浩	関西学院大学 総合政策学部教授
鈴木 胖	公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 関西研究センター所長 大阪大学名誉教授
松下 和夫	京都大学名誉教授
吉村 元男	株式会社環境事業計画研究所会長 鳥取環境大学元教授

▶ 今中教授は微生物学がご専門ですが、最近の環境やエネルギー問題に関するご研究を教えてくださいませんか。

### ナノバブル技術を活用して 微生物の力で琵琶湖の水質浄化に挑戦

最近では、ナノバブル※(超微細気泡)を用いて微生物を活性化させ、琵琶湖(滋賀県)の浄化を促進する研究を行っています。琵琶湖というのは、400万年の歴史を持っている古代湖であり1400万人の飲料水を供給する水がめですが、湖底のヘドロ化が進んでいます。琵琶湖の水に空気をナノバブル状態にして入れると、水とともにヘドロの中に浸み込んで好気性の微生物が働き、その微生物がヘドロを水と二酸化炭素に分解するという考え方です。ナノバブル技術を使えば、空気をセラミックスのフィルターを通して流すだけでナノバブルが発生し、微生物活性化によるヘドロの浄化ができるのです。水をかき混ぜる必要もなく、とても安全に安心して費用もかからず安価に水質浄化ができます。実験で成果は確認できています。

※ナノバブルはナノ(10億分の1)メートルサイズの空気の泡。極めて小さいため浮かび上がりず水中にとどまる。



柳が崎実験場(琵琶湖汽船棧橋)

### 今中教授のプロフィール

今中 忠行 (いまなか ただゆき)

立命館大学 生命科学部 教授、京都大学 名誉教授  
1969年大阪大学 大学院工学研究科修士課程修了。  
マサチューセッツ工科大学博士研究員、大阪大学工学部教授を経て、1996年から京都大学教授。  
2008年より現職。

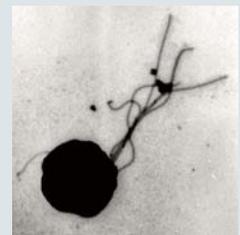


立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

▶ 極限環境に生きる微生物の生命原理を徹底解明されていますが、微生物に環境問題解決の働きを期待できるのですか。

### 超好熱菌の働きで廃棄バイオマスから水素を生産、エコでグリーンなエネルギーを創出

1993年に鹿児島県小宝島の温泉から超好熱始原菌の分離に成功しました。本菌は、60℃から100℃で育成する嫌気性菌であり、細胞は直径が約1μm(ナノメートル)の不定球菌で複数の鞭毛を有している始原菌でした。研究の結果、比較的簡単な代謝経路を利用して、水素を発生できることがわかりました。この成果を応用して、例えば食品加工工場のジャガイモやサツマイモなどの廃棄物処理に超好熱菌を活用することで連続的に水素を生産できます。この水素を集めて燃料電池を用いれば電気に転換することが可能となります。微生物がエコでグリーンなエネルギーの創出に活用できるということです。



超好熱菌

### 南極地域由来の新規微生物群を解明



今中教授は2004年11月から2005年3月にかけて第46次南極地域観測隊に参加されました。南極海や露岩地域の土壌、内陸湖沼などから262サンプルを採取し、多数の新属・新種の微生物を単離することができました。

# CSRマネジメント

エスペックは、コーポレートガバナンス体制の強化や、コンプライアンスの推進、リスクマネジメントなどに継続して取り組むことで、より社会性・透明性・効率性の高い企業を目指しています。

## コーポレートガバナンス

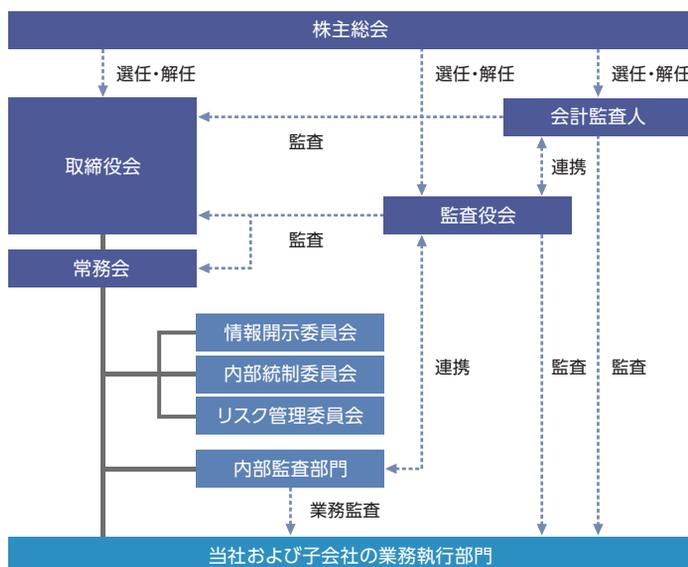
### 基本的な考え方

企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置 (= 企業は公器) であるという考えのもと、ステークホルダーのみなさまとより良い関係を築き、より高い価値を提供することで「価値交換性の高い企業」を目指しています。この考えを踏まえて事業活動を行うにはコーポレートガバナンスの確立は不可欠であり、コンプライアンスの確保と、透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

### コーポレートガバナンス体制

当社は監査役会設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会や重要会議体に出席し、適正な監査を行っています。2014年6月末現在、取締役は社外取締役1名を含む7名、監査役は社外監査役2名を含む4名で構成しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化を図っています。また、社外取締役1名を独立役員として東京証券取引所に届け出ています。

#### ■コーポレートガバナンス体制



## コンプライアンス

### 基本的な考え方

当社は、遵法だけでなく、社会規範を尊重し、社会の常識や道徳観・倫理観に反しない企業活動を心がけています。また活動を行う国や地域によって法律上の格差がある場合には、より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととしています。こうした考え方は、THE ESPEC MINDの『宣言』や『経営理念』などに明記されています。



THE ESPEC MIND 冊子

### 「エスペック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスペック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページに掲載し、社内外に公表しています。また、定期的に研修を行うとともに常時携帯するための小冊子を配布しています。

### コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受けるコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報を行ったことを理由とする通報者への不利益な取り扱いは一切行いません。これにより、不正行為等の未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

### インサイダー取引に関する教育

当社は「内部者取引(インサイダー取引)管理規定」を制定し、違法なインサイダー取引の未然防止に努めています。社員教育については、東京証券取引所作成の教育用資料を用い、インサイダー取引に関する基本的な知識の習得を図るとともに当社の関連規定の再確認を行っています。2011年度は管理職を対象に実施し、2012年度には管理職が講師となり部門ごとに教育を行いました。2013年度は、新入社員への教育を実施しました。

## リスクマネジメント

### リスク管理体制

当社では、全社的なリスクの識別・評価は、所管部門や検討部会で実施し、その結果をリスク管理委員会で審議・承認しています。

個別リスクについては、対応方法を「リスク管理規定」「危機対応規定」等に定めるほか、必要に応じて取締役会や関連会議体で評価・検討し、所管部門で適切・迅速に対応します。

### 情報管理体制

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定し、管理の徹底を図っています。

### 内部統制システムに関する基本的な考え方

「意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を順守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、社会やステークホルダーに信頼される会社であり続けること」を内部統制に関する基本方針として定めています。

### 反社会的勢力排除に向けた取り組み

「エスぺック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

また、対応統括部門および不当要求防止責任者を設置するとともに、大阪府企業防衛連合協議会に加盟し、警察や他の加盟企業と連携して、情報の収集・交換に努めています。

### 地震対策

当社では、大規模な地震が発生した場合に備え、事業の継続と社員の安全を確保するため、「危機対応規定」「地震対応手続」を制定し、緊急時の対応を社員に周知しています。すべての国内事業所に非常食などの災害備蓄品を配備するとともに、定期的に防災訓練を実施しています。

2013年度は、平常時の安全確保対策として全事業所で防火・防犯・防災に関する自己点検を行いました。また、社員の緊急連絡網を整備するとともに、巨大地震発生時の安否確認訓練を2回実施し、全事業所、約6割の社員が参加しました。

## お客さまとのかかわり

エスペックでは、お客さまのニーズに的確にお応えし、お客さまからの信頼を高めるために、さまざまな取り組みを行っています。

### 製品・サービスの品質保証

「スピーディーに製品品質と対応品質を高め、お客さま満足度を向上させる」を基本方針に、お客さま満足度の向上に取り組んでいます。

#### 品質方針

当社は、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、当社製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

#### 品質保証体制

企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」の審査・登録を行い、その後2008年、ISOの改正を受けて、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2013年度は「スピーディーに製品品質と対応品質を高め、お客さま満足度を向上させる」を基本方針に、各部門の連携を密にした品質保証活動により、製品とサービスの品質向上に取り組んでいます。クオリティの高い製品・サービスの提供とグローバルな品質保証体制により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

#### QMC活動

当社では、生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。QMC活動は、生産部門だけでなく、営業・スタッフ部門から開発部門までを対象とした全員参加型の小集団活動であり、「全てはお客さまのために」という視点で、全社をあげて取り組んでいます。

2013年度は、81サークルがさまざまなテーマで改

善活動に取り組む、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

また、当社福知山工場が、QCサークル本部より「2013年度QCサークル活動(小集団改善活動)優良企業・事業所表彰」を受賞しました。当社が長年にわたり地域におけるQC活動活性化のリード役を担ってきたことや、取引先に対して継続的にQCサークル活動の指導・支援を行っていることなどが評価されました。

### お客さまへの満足に向けて

お客さまのお役に立てるよう価値ある情報をお届けしています。

#### 国内のお客さまに向けた取り組み

##### ● エスペック信頼性セミナー2013の開催

お客さまへの信頼性試験における有益な情報を提供する活動として、エスペック信頼性セミナー2013を東京で開催し、133名のお客さまに参加いただきました。当社からは、エナジーデバイスの信頼性試験における取り組みと新しい受託試験所についてご紹介しました。

##### <主なテーマ>

- 次世代パワー半導体用接合技術
- 車載電子製品故障・解析事例とその将来動向
- エナジーデバイスの信頼性試験と受託試験について



エスペック信頼性セミナー2013

##### ● 信頼性インハウスセミナーの開催

お客さまからのご要請をいただき、お客さま先での信頼性セミナーを行っています。当社の信頼性分野における長年の経験とノウハウを活かし、信頼性の基礎から応用まで幅広い内容のセミナーを開催しています。2013年度は9カ所で開催し、リチウムイオン二次電池の試験事例や、車載電子部品の寿命予測の考え方などをテーマに行いました。

## 海外のお客さまに向けた取り組み

### ● エスペック海外代理店会議の開催

2013年10月、世界19ヵ国から21社の海外代理店のみなさまをお迎えし、福知山工場と神戸R&Dセンターで海外代理店会議を開催しました。会議では、工場見学や実機を用いた新製品の紹介などにより、当社が推進している「強い工場づくり」「強い製品づくり」のご理解を深めていただきました。



エスペック海外代理店会議

### ● AABC Europe 2013への出展

車載電池の国際シンポジウム「AABC※ Europe 2013 (フランス・ストラスブール)」に、フランスの代理店と共同出展しました。展示ブースでは当社の電子市場向け製品などについて説明を行いました。二次電池の信頼性試験に関しては、ポスターセッション形式で発表を行いました。

※AABC: Advance Automotive Battery Conference

### ● プロダクトロニカ2013への出展

世界最大の製造技術展である「プロダクトロニカ2013 (ドイツ・ミュンヘン)」に、ドイツの代理店と共同出展しました。当社ブースには、EC圏、トルコ、インド、韓国、米国、メキシコから自動車や自動車関連のお客さまが多数ご来場されました。



展示会場 (ドイツ・ミュンヘン)

## カスタマーサポート

お客さまを的確にサポートするためにさまざまな活動を行っています。

### カスタマーセンター

国内外のお客さまや代理店さまのお問い合わせにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置し、技術に関するお問い合わせや製品紹介など年間1万件以上を取り扱っています。また、オペレータの品質向上を図るためモニタリングによる教育を定期的実施し、提案力を強化しているほか、代理店さま向け情報も随時更新しタイムリーな情報提供に努めています。

### 予防保全とメンテナンス

お客さまに安心して製品をご使用いただくため、全国16のサービス拠点で最適な予防保全と24時間受付サービスなどを行っています。

また、製品のバックトレース機能によるネット診断サービスを実施し、試験装置のダウンタイム低減を図っています。2013年11月には、当社装置に異常があればネットワークを介して当社が異常を検知し、お客さまにご連絡することで早期復旧を可能にするサービス「エスペックオンラインサポート」を業界で初めて開始しました。

さらに、フィールドエンジニアに対するアンケートを定期的実施し、今後の教育や業務改善に反映するなどアフターサービスの向上に役立てています。製品故障時の修理対応速度として、1日以内対応80%を目標(2013年度実績84.2%)に、これからも迅速なサービスに努めていきます。

### 日系企業の東南アジア進出をサポート

#### 「ASEANサポートデスク」

当社は、東南アジアに進出されているお客さまに安心して製品をご利用いただけるよう、日本語でさまざまなサポートを行う「ASEANサポートデスク」を設置しています。

2013年9月には、従来のマレーシア、タイ、ベトナム、日本に、フィリピンとシンガポールを加えた6ヵ国へと対象範囲を拡大しました。製品購入、各種サービスはもちろん、輸出入のご相談などにも対応しています。

# 従業員とのかかわり

「エスベック行動憲章・行動規範」において、基本的人権の尊重、差別的待遇の排除、プライバシーの保護、雇用における機会均等および人権侵害行為への対処などを明記し、周知徹底を図るとともに、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

## 人事方針・制度

「役割と成果」「選択と自己責任」を基軸とした自己実現と働きがい創出する人事制度の構築に努めています。

### 人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。「社員が主役の会社でありたい」というのが基本的な考え方です。

また、高いモチベーションと品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

### コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的実施しています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせとコミュニケーションの円滑化を目指しています。

### コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2013年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が77%、「勤務地域限定」が23%となりました。

### 社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政・加入団体等からの表彰など、精励・功労の著しい社員を他の模範としてたたえる社員表彰を行っています。

### 自己啓発教育支援

自己啓発教育講座、援助金支給制度(外国語学習支援、通信教育、推奨資格)など、社員が「伸ばしたい能力」に合わせた教育を受けられるよう支援しています。2013年度は、自己啓発教育講座(11講座)を132名が受講し、外国語学習23名・通信教育82名・推奨資格114名が援助金支給制度を利用しました。2014年度からは、自己啓発教育講座において、従来の社内講師による講座に加え、外部講師によるビジネススキル講座を新たに開講するなど、さらなる充実を図りました。

### グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)

国際的なビジネスに対応できる中核的人材を育成するため、「グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)」を設けています。この制度は、社員を海外グループ会社に一定期間派遣し、現地での実務体験を通してグローバルな考え方や幅広い見識を身に付けるものです。2013年度は、アメリカ1名、中国2名を派遣しました。

### ラウンドアップシステム(研修会)の実施

全社員を対象にラウンドアップシステムを実施しました。ラウンドアップシステムとは、企業のベクトルを一致させる重要な経営システムです。社員一人ひとりが企業理念の理解を深め、全社員で共有し、より良い企業文化を形成するため、継続して毎年実施しています。

2013年度も、管理職や一般社員、新入社員といった各層のプログラムに、世代を越えた中核的人材を集めたプログラムなど、多彩な内容で実施しました。



研修風景

## 多様性の尊重

年齢や性別など社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。

### 女性の活躍推進

組織の活性化につなげることを目的に、2013年度より女性社員を組織のリーダーとして計画的に育成する取り組みを開始しました。選抜女性社員は、ワークショップを通じて中核的人材の育成を図る研修合宿に参加するとともに、女性が活躍することの重要性や課題などについて学ぶ研修を受講しました。2014年4月1日現在の管理職は男性が102名、女性5名で、女性管理職比率は5%ですが、2014年度組織において研修受講生から管理職が新たに誕生するなど、増加傾向にあります。今後も女性社員の育成に積極的に取り組んでいきます。



研修風景

### 定年退職者の再雇用

知識・知恵・技能の伝承ができるように定年退職者の再雇用制度を導入しています。再雇用制度によって、希望者全員65歳までの雇用を確保するようにしており、2013年度は定年退職者13名のうち、再雇用者11名となりました。

### 障がい者の雇用

障がいのある方が12名勤務しています(2014年3月末現在)。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組みます。

## 快適な職場環境づくり

社員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

### ワーク・ライフ・バランスマネジメント

単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務づけています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しています。

さらに、正社員だけでなく契約社員にも育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2014年3月末までに延べ62名が育児休業を取得し、延べ37名が育児短時間勤務を選択しており、2013年度では5名が育児休業、2名が育児短時間勤務の利用を開始しました。

### セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇、いやがらせ行為等について、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。

### メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とそのご家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。WEB上のストレス診断で毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。また、電話やWEB、面接による相談窓口を設置しています。

2011年度は管理職を対象に、2012年度は専門職・専任職およびリーダーを対象としたメンタルヘルス研修を実施しました。外部講師を招き、部下との信頼関係の構築やコミュニケーションの取り方など部門内のメンタルヘルスマネジメントについて教育を行いました。

## 従業員とのかかわり

### 安全衛生活動

主要事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。

2013年度の当社の休業労働災害発生件数は0件で、連続無災害日数(不休災害を除く)は1,307日となりました(2014年3月末現在)。

#### ■安全衛生活動の目標と実績

	目標	2011年度	2012年度	2013年度
労働災害(不休災害を除く)	0件	0件	0件	0件
健康診断受診率	100%	99%	99%	99%
車、バイク、自転車による人身事故	0件	6件	6件	11件
車、バイクによる自責事故	0件	20件	19件	15件

### 福利厚生充実

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、自身で必要なサービスを選択する選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」を導入しています。育児や介護、学習、旅行など多様なメニューから割引サービスなどを受けることができます。

また、社員の資産形成を支援するため、財産形成貯蓄制度では社員の積立額に対して、従業員持株会では会員の拠出金に対して、定率の奨励金を会社より支給しています。

### 労使関係

当社の労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は637名、組合員比率は74.5%となっています(2014年3月末現在)。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。

### 従業員とのコミュニケーション

会社と従業員の双方向のコミュニケーションにより、良質な企業文化の構築に取り組んでいます。

### 社長メッセージ

社内ホームページに、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えることで、経営層と現場のベクトル・価値観の共有化を図っています。

### 社内報「プログレッシブ」の発行

全社員への企業理念THE ESPEC MINDの理解や浸透、情報の共有を目的とした社内報「プログレッシブ」を定期的に発行しています。全社員を対象としたコミュニケーション誌として、さらなる充実化を図っていきます。



### ダイレクトコミュニケーション

2010年度より経営層と一般社員との対話を行う「ダイレクトコミュニケーション」を実施しています。社長をはじめとする全役員が、全国の事業所に出向いて、一般社員から会社の将来や自分たちの仕事についての要望や質問などを聞いています。うちとけた雰囲気の中、経営層と一般社員との間で活発な意見が交わられています。

## 取引先さまとのかかわり

製品・サービスの品質向上において、取引先さまとの信頼関係が重要であると考えています。そのために、エスペックでは、取引先さまとの長期的かつ発展的な関係づくりに力を注いでいます。

## 取引先さまとのより良い関係を目指して

さまざまな活動を通して、取引先さまとの信頼関係の構築に取り組んでいます。

## 基本方針

当社は取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスを適切な品質・価格・納期、環境への配慮を含めて総合的に判断し調達していきます。

## 法令の理解・順守のために

資材調達において「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」の順守を徹底することを目的としたさまざまな取り組みを行っています。

2013年度は、資材部内での定期的な自主監査はもちろんのこと、関係部門に対する監査を強化し、懸案事項に対する必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を重点的に行ってきました。また、これまで継続的に実施してきた下請代金法講習会を購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の責任者も対象として、下請取引を適正に行える体制の強化に取り組みました。

## 事業継続マネジメントの取り組み

自然災害や取引先さまの倒産などの不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービス提供に対する影響を最小限にするため、当社資産の金型の現物確認や、取引先さまの経営状況等の確認を定期的に行っています。

2013年度は、昨年度に構築した重要管理部品（欠品が生じると生産現場への影響が大きい部品）を管理する仕組みについて、定期的な見直し・改善に取り組みました。その結果、台風18号による大雨被害や伊予灘地震等の災害発生の際、迅速に部品供給状況を確認して生産現場への影響を最小限に抑えることができました。

## 「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまと当社との相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を設置し、39社の取引先さまに参画いただいています（2014年3月末現在）。

2013年度は、工場見学や講演会、取引先さまの実務担当者と当社購買担当者との交流イベント、QCサークル活動に関する勉強会を実施しました。



第32回エスペック共栄会総会

## 「エスペック優秀取引先表彰制度」の実施

多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優秀取引先表彰制度」を導入しています。2013年度は、社長賞1社・優秀賞1社・特別賞2社の取引先さまを表彰させていただきました。

第32回エスペック共栄会総会  
優秀取引先表彰

## グリーン調達の実施

2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「エコアクション21」もしくは「公的機関・行政の行っている環境活動」の認証取得、または「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、当社からも講習会や現地指導などの支援活動を行っています。

2013年度は「エスペックグリーン調達基準書」の見直しを行うとともに、RoHS規制対応強化等、認定取引先さまのグリーン調達対応におけるレベルアップを図るための活動に取り組んできました。その結果、当社登録部品点数の94%を占める合計123社の取引先さまがエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。

# 株主・投資家さまとの かかわり

## 株主・投資家さまとのコミュニケーション

迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、良好なコミュニケーションの醸成に努めています。

### 情報開示の方針・体制

会社法、金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従い、適切な情報開示に努めています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

社内体制としては、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者（スポークスマン）を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を行っています。

### 開かれた株主総会の実現に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

2014年6月25日に第61回定時株主総会を開催し、128名の株主さまにご出席いただきました。総会終了後には、株主さまと役員が気軽に交流する場を設けました。



株主総会

ESPECは、「ステークホルダーへの実直なアカウンタビリティ」を経営理念に掲げ、常に誠実・正直に説明責任を果たすことをポリシーとしています。IR活動においても適時適切な情報開示や説明会・IRツールの充実などに取り組んでいます。

### 機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と取締役が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングについても東京・大阪を中心に随時行っており、2013年度は約100回実施しました。



決算説明会

### 東証IRフェスタへの出展

より多くの個人投資家のみなさまに当社を知っていただくため、2014年2月に東京国際フォーラムで開催された東証IRフェスタに出展しました。ブース内で説明会を定期的に行うとともに、別会場で社長による説明会も開催し、2日間で800名以上の方々にお越しいただきました。今後も個人投資家のみなさまと情報交換をさせていただく機会を積極的に設けていきます。



展示ブース内説明会

### IRツールの充実

株主通信やファクトブック、ホームページのIRサイトなどのIRツールの充実に継続的に取り組んでいます。

IRサイトでは、決算説明会の資料や各種財務データ、株主・株式情報など、みなさまに当社をご理解いただくために役立つ情報を積極的に掲載しています。また、IRサイトに新たな決算情報やニュースリリースなどを掲載した際に、国内および海外の投資家さまにタイムリーにお知らせする情報配信活動も行っています。

## IRサイトに対する社外評価

当社のIRサイトは、日興アイ・アール社が主催する「2013年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、「優秀サイト(総合ランキング)」として認定されるなど、社外より高い評価をいただいています。



■ IRサイト <http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

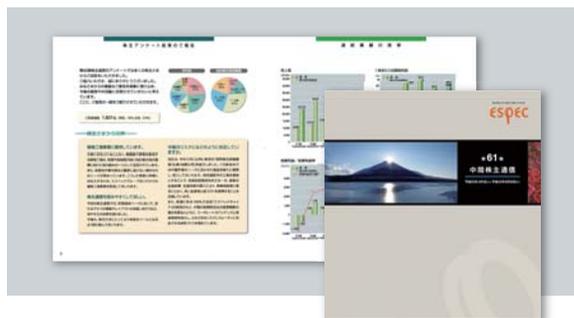
## 経営へのフィードバック

市場からの貴重な意見・評価を経営にフィードバックし、さらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

## 株主・投資家さまアンケート

当社は、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付に合わせて株主さまを対象としたアンケートを実施しています。株主通信のアンケートでいただいた株主さまからのご意見などを中間株主通信で報告しています。

2013年度は、1,621名の株主さまからご回答をいただきました。



株主アンケート報告(中間株主通信)

## 市場評価のフィードバック

会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などをレポートにまとめ、取締役会で随時報告を行っています。市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

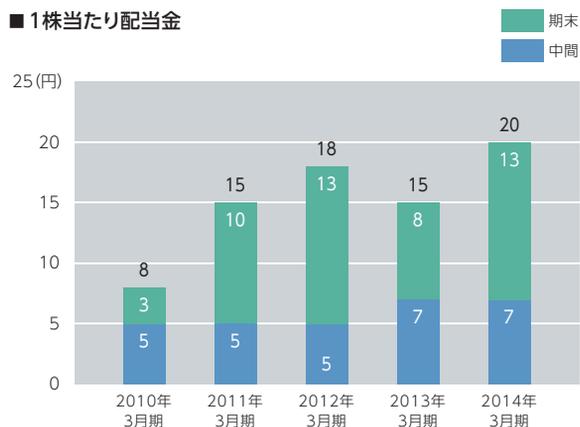
## 株主さまへの還元

継続性と配当性向を勘案し、株主さまへの配当を実施しています。

## 株主さまへの還元

当社は、株主のみならず利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であるとし、継続性と配当性向を勘案して配当を決定することを基本方針としています。2014年3月期の年間配当金は1株当たり20円とさせていただきます。

## ■ 1株当たり配当金



# 社会とのかかわり (社会貢献)

エスペックは「良き社会の一員」として、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、一人ひとりがその意義を認識し、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでいます。

## 社会とのコミュニケーション

さまざまな活動を通じて  
社会のみなさまと交流を持ち、  
相互理解に努めています。

### 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置しました。地球環境保全に関する調査研究や技術開発、緑化の教育・啓発などに対し資金援助を実施しており、これまでに162団体に対し、総額8,472万円の助成を行いました。2013年度は、応募数64件の中から、11件のテーマについて助成しました。



第16回公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」授与式

#### ■ 研究テーマの紹介

- 1 超高温高压水蒸気爆砕を用いたセルロース廃棄物の直接グルコース変換
- 2 光学観測技術の活用による森林の生態系サービスの効果的な推定法の開発
- 3 ヤクシマカワゴロモの保全に関する研究
- 4 黒ボク土壌の有機物分解制限因子としてのリン
- 5 絶滅危惧種タナゴの保全に資する代償生息池造成の試行実験
- 6 集落緑化と地産地消による環境バランス改善評価ツールの開発と適用  
～エコロジカル・フットプリント指標を応用して～
- 7 地球温暖化による植物の分布変化  
～多年生草本チガヤをモデルとして～
- 8 マイクロリアクターを用いた環境調和型アニオン重合系高分子生産技術の開発
- 9 ソフトプラズマイオン化飛行時間型質量分析計を用いたばい煙中有機エアロゾルの直接分析
- 10 北極域の海水域面積と気象条件への影響評価  
～北極変動指数との関連～
- 11 森林生態系における放射性セシウムの生物拡散

### エスペックみどりの学校



当社は、エスペックみどりの学校を開校し、地球環境のことを考えるリーダーの養成に取り組んでいます。全国各地でセミナーやイベントなどを開催するこの学校は、環境教育等促進法に基づく人材認定等事業で、累計受講者数は3,812名(2014年3月31日現在)となりました。

#### ● 森づくりのリーダー養成セミナー

2011年度より「エスペックの森<sup>※</sup>」を研修の場として、「エスペックみどりの学校・命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」に関西学院大学の協賛を得て実施しています。本セミナーは、座学と実習で構成したプログラムで春・夏・秋・冬の年4回開催しており、2014年度からは、同大学のカリキュラムとして採用されています。2013年度は、特別授業として大阪府富田林市でも植樹体験実習を行いました。

※エスペックの森：神戸R&Dセンター敷地内に在来の苗木を植樹し、育てた森



実習風景

### 宮城県気仙沼市で「みどりのカーテン」づくり

2014年5月24日・25日の2日間、気仙沼市唐桑町で「みどりのカーテン」づくりを実施しました。本活動4年目となる今回は、社員ボランティア19名が昨年と同じ唐桑町の5カ所の仮設住宅と幼稚園・小中学校など約70戸にゴーヤ苗を植え付けました。この活動は、震災発生5年後となる2015年まで実施します。



福祉の里仮設住宅のみなさんと社員ボランティア

### 宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭に参加

2014年5月31日、岩沼市で「千年希望の丘」植樹祭が開催され、約7,000名のボランティアの手によって、タブノキやシイノキ、ヤマザクラなど約70,000本の植樹が行われました。当社社員23名もボランティアとして参加しました。「千年希望の丘」は、震災で発生した瓦礫（再生資源）と津波堆積土を活用して築造した丘にこの土地本来の木を植えた緑の防潮堤です。津波の威力を減衰・分散させる機能を持たせ、災害時には避難場所になり、平時には、防災教育や震災記憶の伝承の役割も担います。この活動は2013年よりスタートしており、「いのちを守る森の防潮堤づくり」を提唱された植物生態学者の宮脇昭先生（横浜国立大学名誉教授）の植樹指導のもと当社グループ会社のエスペックミックが協力しています。



社員ボランティアによる植樹の様子

### 獣害被害を考える取り組み

近年、野生動物による森林被害が増加していますが、中でもシカが農作物を食い荒らし、木の皮を剥いで食べることによる森林被害は深刻度を増しています。当社は、2013年度より福知山工場の社員食堂において、地元で捕れた野生の鹿肉を使った昼食メニューの提供を開始しました。この活動は、獣害問題を考えるきっかけにしてもらうことを目的としており、今後もこの取り組みを定期的実施していく方針です。

### エスペックミックで自然環境の大切さを体験学習

エスペックミックでは、2001年より郷土学習訪問を受け入れています。植樹祭への参加や、植生調査、植物工場での野菜栽培といった実際の業務も体験していただくことで、自然環境の大切さを学んでいただいています。2013年度は、中学・大学の学生9名と志ネットワーク「青年塾」\*の塾生28名を受け入れました。

\*青年塾：松下政経塾・元塾頭の上甲 晃氏が主宰している私塾



愛知県 宮田中学校の郷土学習

### フィリピン台風被害に対する支援

2013年11月にフィリピンに上陸した台風30号による深刻な被害の復興に役立てていただくため、当社および当社グループの役員・社員より義援金を募り、日本赤十字社を通じて、約90万円の寄付を行いました。また、フィリピン ルソン島・セブ島のお客さまをご訪問し、被害状況の確認を行いました。



赤十字への寄付風景

# 環境マネジメント

エスペックでは、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

## 環境経営の基本方針

当社は、環境宣言「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」に基づき、真摯に

環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

## エスペック環境基本方針

### 環境宣言

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。  
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。  
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

### 基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。  
よって、エスペックは、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。  
そして、環境試験装置、電子デバイス装置およびエネルギーデバイス装置などの製造、販売、メンテナンス、及び受託試験の提供で、低炭素技術などを開発されているお客さまに貢献する企業となることを目指します。

### 基本方針

1. 地球温暖化防止への貢献を目指し、技術開発、製品及びサービスの開発を行い、お客さまに提供します。
2. 地域（都市・里地・里山・奥山）の生態系保全活動への参加・協働を通して、生物多様性保全への貢献を目指します。
3. 事業活動・製品・サービスの有害物質の管理やグリーン調達によって、環境への汚染防止に努めます。
4. 企業活動にて発生する排出物と製品の3R（リデュース・リユース・リサイクル）に努めることによって、循環型社会の実現に寄与します。
5. 設計・製造・販売・メンテナンス・事務活動における環境負荷低減によって、地球環境保全に貢献します。
6. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組めます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2014年4月1日

代表取締役社長

石田 雅昭

●この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します

## 環境マネジメント推進体制

第5次環境中期計画の最終年度として、目標達成に向け各種施策を推進しました。

### ISO14001の認証取得

当社は、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。今後も、エスペックグループ全体で、環境マネジメント活動を推進していきます。



### ■ 環境マネジメントシステムの審査登録状況

社名	環境マネジメントシステム	取得年月日
エスペック株式会社	ISO14001	1996年12月26日
エスペックテクノ株式会社 (現・エスペックテストシステム株式会社)	ISO14001	2003年3月12日
エスペック九州株式会社	ISO14001	2004年8月4日
上海愛斯佩克環境設備有限公司	ISO14001	2004年9月8日
エスペックミック株式会社	エコアクション21	2005年4月27日

### 全社環境管理委員会

環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。2011年度から2013年度までの第5次環境中期計画では、環境目標の中でも特に、CO<sub>2</sub>排出量削減に重点をおいた環境マネジメント活動を行いました。

## 環境啓発活動

環境関連行事の開催を通じて、社員の環境啓発に取り組んでいます。

### エスペック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定しています。全社員、取引先さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取り組みを行っています。

毎年、全社環境大会の開催および「環境功労賞」「環境ポスター・絵はがきコンテスト」などの各種表彰や地域清掃活動などを実施しています。

### 全社環境大会

環境啓発の一環として「エスペック環境ウィーク」に、全社環境大会を開催しています。社員および主要な取引先さま約140名が参加し、社長よりエスペックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

### 環境社会検定試験 (eco検定) の取得奨励

幅広い知識をもって環境問題に取り組む人づくりを目的としてeco検定の取得を奨励しています。2013年度で、管理職全員、正社員の約70%が合格しています。

## 環境マネジメント

### 2013年度 報告

第5次環境中期計画で掲げた目標は、概ね達成しました。特に「地球温暖化防止」への貢献として掲げた、製品・受託試験・プロセスでのCO<sub>2</sub>排出量削減は、目標を大幅に達成する7,300t超となりました。また、研究・教育への支援を中

心とした生物多様性保全への取り組みとして、公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」が累積162団体に対し総額8,472万円の助成を行うことができました。みどりの学校では、受講生が累積3,812名に達しました。

### 2013年度および第5次環境中期計画 目的・目標と実績

	目的・目標テーマ	第5次環境中期計画 環境目的 (2011~2013年度)	2013年度		
			環境目標	実績	
1	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・受託試験・プロセス(生産部門・事務部門)でCO<sub>2</sub>排出量を削減します 削減 6,800t以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減 6,800t以上</li> </ul>	7,363t	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ製品・省エネ改造サービスの提供で、お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出量を5,740t以上削減します</li> </ul>	6,214t	
			製品・改造	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境配慮製品として新製品1機種 of 発売を完了します</li> </ul>	1機種発売
				<ul style="list-style-type: none"> <li>既にお客さまにて使用されている高温器を省エネに改造するサービスを開始します</li> </ul>	サービス開始
			<ul style="list-style-type: none"> <li>受託試験所の省エネを進め、CO<sub>2</sub>排出量を330t以上削減します</li> </ul>	361t	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生産部門・事務部門にてCO<sub>2</sub>排出量を730t以上削減します</li> </ul>	788t	
2	生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 160件以上</li> </ul>	累計162件		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>福知山市・家庭分野でのみどりのカーテン実施率10%以上</li> </ul>	8.3% (2,497世帯)		
3	汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州向け製品をRoHS規制対応品とします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州向け製品のうち、2機種についてRoHS対応品とします</li> </ul>	2機種対応	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達基準に基づく部品調達率90%以上を維持します</li> </ul>	94%		
4	循環型社会の実現に寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内のすべての事業所においてゼロエミッションを達成します</li> </ul>	全事業所 ゼロエミッション		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収170台以上</li> </ul>	132台		
5	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計・事務部門で、事務用紙使用量を削減します 削減20万枚以上</li> </ul>	20.5万枚		

## 第6次環境中期計画および2014年度 環境目標

2014年度から2016年度までの3カ年を第6次環境中期計画として、環境目的・環境目標を策定しました。第5次環境中期計画と同様、「地球温暖化防止」に貢献するためにCO<sub>2</sub>排出量削減を最重要目的と位置づけていますが、「クリーンで経済的なエネルギーの供給・流通・消費社会の実現」に貢献するた

め、「エナジーデバイス(二次電池・パワー半導体・太陽電池)を開発されているお客さまへの製品・サービスの提供」を新たに環境目的として設定しました。また、「生物多様性保全」については、従来の研究・教育への支援を中心とした取り組みから一歩進め、「地域の協働保全活動への貢献」に変更しました。

## 第6次環境中期計画および2014年度 目的・目標

目的・目標テーマ	第6次環境中期計画 環境目的(2014~2016年度)	2014年度	
		環境目標	
1 地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品・受託試験・プロセス(生産部門・事務部門)でCO<sub>2</sub>排出量を削減します 削減 10,000t以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減 8,000t以上</li> <li>国内で生産している省エネ製品等の提供で、お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出量を6,000t以上削減します</li> <li>中国で生産している省エネ製品等の提供で、お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出量を960t以上削減します</li> <li>受託試験所にてCO<sub>2</sub>排出量削減330tの状態を維持します</li> <li>生産部門・事務部門にてCO<sub>2</sub>排出量削減730tの状態を維持します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エナジーデバイスを開発されているお客さまへ製品・サービスを提供します 2010年度比1.2倍(売上24億円)以上</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンで経済的なエネルギーの供給・流通・消費社会の実現に貢献する製品・サービスを提供します エナジーデバイスを開発されているお客さまへ製品・サービスを提供します 2010年度比1.3倍以上</li> </ul>		
2 生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協働活動に参画し貢献します ①みどりのカーテン普及 実施世帯数1万世帯以上 ②森づくり活動 累積参加人数 800名以上</li> <li>公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 190件以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協働活動への貢献します ①みどりのカーテン普及 実施世帯数5,400世帯 ②森づくり活動 累積参加人数 600名以上</li> <li>公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 170件以上</li> </ul>	
3 汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州向け製品をRoHS規制対応品とします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州向け製品のうち、8機種についてRoHS対応品とします</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーン調達基準に基づく部品調達率90%以上を維持します</li> </ul>		
4 循環型社会の実現に寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内のすべての事業所においてゼロエミッションを維持します</li> <li>製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収200台以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収170台以上</li> </ul>	
5 環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3*における5つのカテゴリーまで温室効果ガス排出量の管理範囲を拡大し、改善課題を明確にします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スコープ3における3つのカテゴリーまで温室効果ガス排出量の管理範囲を拡大し、改善課題を明確にします</li> </ul>	

\* サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量

## 環境に配慮した製品

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮型製品の開発・提供を進めています。

### 環境配慮型製品創出への取り組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境負荷低減に努めています。

#### 製品開発の基本的な考え方

当社では、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その製品開発の姿勢は現在へと受け継がれ、当社の主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。制定以来、時代とともに改訂を重ね安全・品質・価格・環境・納期のすべてに満足する製品を開発することを基本にしています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

#### リサイクルへの取り組み

当社製品は、金属材料と樹脂材料で構成しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分場に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体・分別しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキングなどを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

#### 冷媒フロンへの取り組み

当社では、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。2000年には、当社製品の冷凍回路のHFCフロンへの転換を完了させています。

### 化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、自主的にRoHS指令対応部品への代替化を進めています。

#### 危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

EU-RoHS指令における6品目の有害物質については、2014年3月末現在、当社製品は規制の対象ではありませんが、2013年から順次自主的にEU-RoHS対応製品の提供を開始しました。

#### PRTR法(化学物質排出移動量届出制度)への対応

当社では、数百種類の危険有害化学物質を使用しています(当社基準に基づく選定)。これらに対し、SDS<sup>\*</sup>の配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置き換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。2013年度、報告義務のある1t以上の取扱量となる物質はありませんでした。

\*化学物質等安全データシート(Safety Data Sheet)。化学物質の安全な使用・取扱いをするために必要な情報を記載した資料。

#### アスベスト対応

当社では、過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までにすべての製品においてアスベスト含有部材の使用を取り止めています。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報公開しています。

## 環境配慮型製品

製品の環境性能をお伝えするため、製品への環境ラベル表示をしています。

### グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮型製品の開発促進、製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構 (ISO) で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型 (タイプII) の環境ラベル (ISO/JISQ14021) に相当するものです。



### グリーンプロダクト認定製品

#### ●真空オーブン

扉ロックや函体構造変更、断熱材の改善で槽内の密閉性と断熱性を向上、ポンプの稼働時間を短縮することで消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率  
最大 **40%**

#### ●安定性試験器

安定性試験専用器として汎用器 (従来品) の空調能力を絞り込み、消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率  
最大 **61%**

#### ●恒温 (恒湿) 器 プラチナスJシリーズ

新冷凍システム (特許出願中) を採用。新開発の Smart R&D (冷凍&除湿) システムを搭載し、省エネルギーと高信頼性を実現、第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。



優秀省エネルギー機器  
日本機械工業連合会会長賞  
平成24年度 日本機械工業連合会

省エネ率  
最大 **70%**



#### ●冷熱衝撃装置 TSAシリーズ

冷凍回路の効率化と、エコ運転機能の予冷・予熱開始時間設定を自動化することにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率  
最大 **50%**



#### ●恒温 (恒湿) 室 ビルドインチャンバー Eシリーズ

DCインバータ冷凍機による周波数制御と電子膨張弁によるパルス制御の組合せにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率  
最大 **60%**



※ 省エネ率は、当社指定運転パターンにおける計測。従来比。

※ 各製品の型式ごとの消費電力および従来比省エネ率については当社ホームページをご覧ください。

# 環境に配慮した工程

エスペックでは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮しています。各拠点・部門で自分たちができることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

## 事業活動における環境配慮の取り組み

幅広い範囲で環境負荷低減に向けた改善を進めています。

### サービスでの取り組み

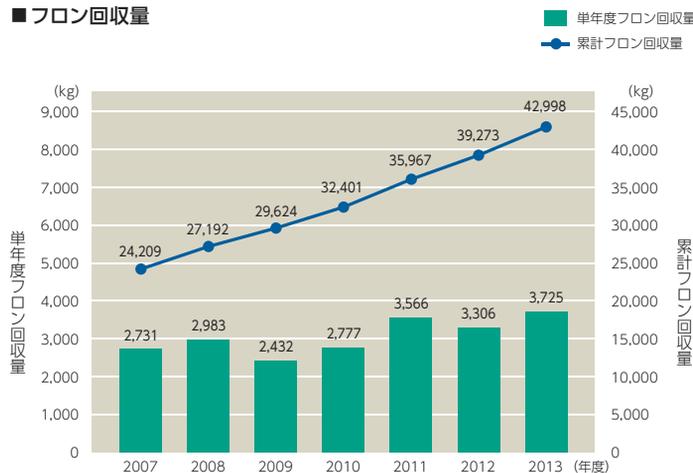
#### ●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け、「製品リサイクルサービス」を開始しました。このサービスは、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理します。2013年度は使用済み製品を132台回収しました。

#### ●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業者登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。これらの回収量は、約43t(2014年3月現在累計)にも及びます。

■フロン回収量



### 物流での取り組み

#### ●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で再使用する取り組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

#### ●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。関係各社のご協力のもと2013年度の1年間で約33t相当のCO<sub>2</sub>削減効果を得ることができました。

### 事業所での取り組み

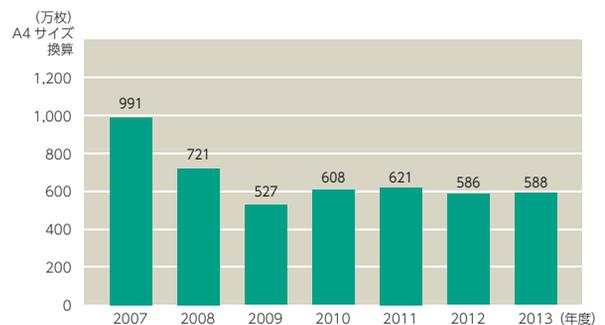
#### ●ゼロエミッションの達成

各事業所において、ゼロエミッション(リサイクル率99%以上)達成を目指しており、2013年度に全事業所で達成しました。今後もゼロエミッションの状態を維持していきます。

#### ●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。これまで、製品の取扱説明書を電子化(CD・DVD)し、大幅に紙を削減していますが、2013年度はカスタム製品の標準化を進め、図面用紙の削減に取り組みました。その結果、売上増加の影響があったものの、2013年度は前年同等の588万枚となりました。また、事務用紙はすべて森林循環紙に切り替えており、今後は600万枚以下の水準を維持していきます。

■事務用紙購入量



#### ●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO<sub>2</sub>の排出量は全体の約1割を占めています。公共交通機関の利用、低燃費車への切り替え、エコ運転の推進により、ガソリン使用量は、312kℓと昨年より削減することができました。

# 社会からの評価

## 環境への取り組みに対する評価

当社の取り組みに対して、  
多方面からご評価をいただきました。

### eco検定アワード2013「エコユニット部門大賞」受賞

東京商工会議所が主催するeco検定アワード2013において「エコユニット部門 大賞」を受賞しました。ゴーヤを用いた「みどりのカーテン」の普及に向けた啓発活動や、事業所内の森を実習地とした森づくりの推進役育成のための取り組み、また、当社製品使用時の消費電力低減に向けた活動など、全社をあげた取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。

※eco検定アワードは、他の模範となる環境活動を実践したエコピープル（eco検定合格者）やエコユニット（エコピープル2名以上の団体）を表彰し社会に周知することによって、個人や企業が積極的に環境に関する知識を身に付け、実際に行動を起こす一助となることを目的としています。



eco検定アワード 授賞式

### 環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2013年度環境経営度調査」で、77位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。2013年度は、前年に比べ「環境経営推進体制」と「温暖化対策」の項目で評価ポイントを上げましたが、「資源循環」と「製品対策」の項目で評価ポイントを下げました。総合ポイントでは前年同等となったものの、順位では5位下がる結果となりました。

#### ■環境経営度調査実績

年度	ランク
2013年度	77位
2012年度	72位
2011年度	65位
2010年度	63位
2009年度	70位

### 平成25年度福知山市市民憲章推進者賞 (ツインクル賞)受賞

2013年11月、福知山市市民憲章推進協議会より「毛原の森 森林保全プロジェクト」として当社とパナソニックフトライティング様、毛原地区自治会様との合同で、「福知山市市民憲章推進者賞(ツインクル賞)」を受賞しました。この賞は、福知山市市民憲章の理念に基づく「幸せを生きる」まちづくりに貢献した者に贈られる賞です。「毛原の森 森林保全プロジェクト」は、農林水産省の「棚田百選」にも選ばれた福知山市大江町毛原の自然豊かな美しい里山を保護・保全する活動で、2007年から当社社員が定期的に森林・雑木の手入れや草刈り、遊歩道の整備などを続けています。

### 日本ビオトープ協会より表彰状を拝受

特定非営利活動法人日本ビオトープ協会よりエスペックミックが表彰状を拝受しました。これは、協会設立20周年を機に実施されたもので、エスペックミックが長年にわたり人間と自然が共生する社会の推進と自然環境保全に尽力し、協会の発展に寄与したことが評価されました。



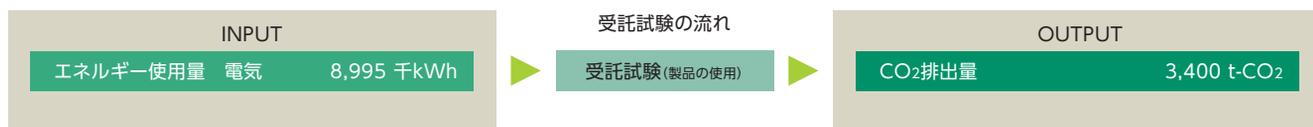
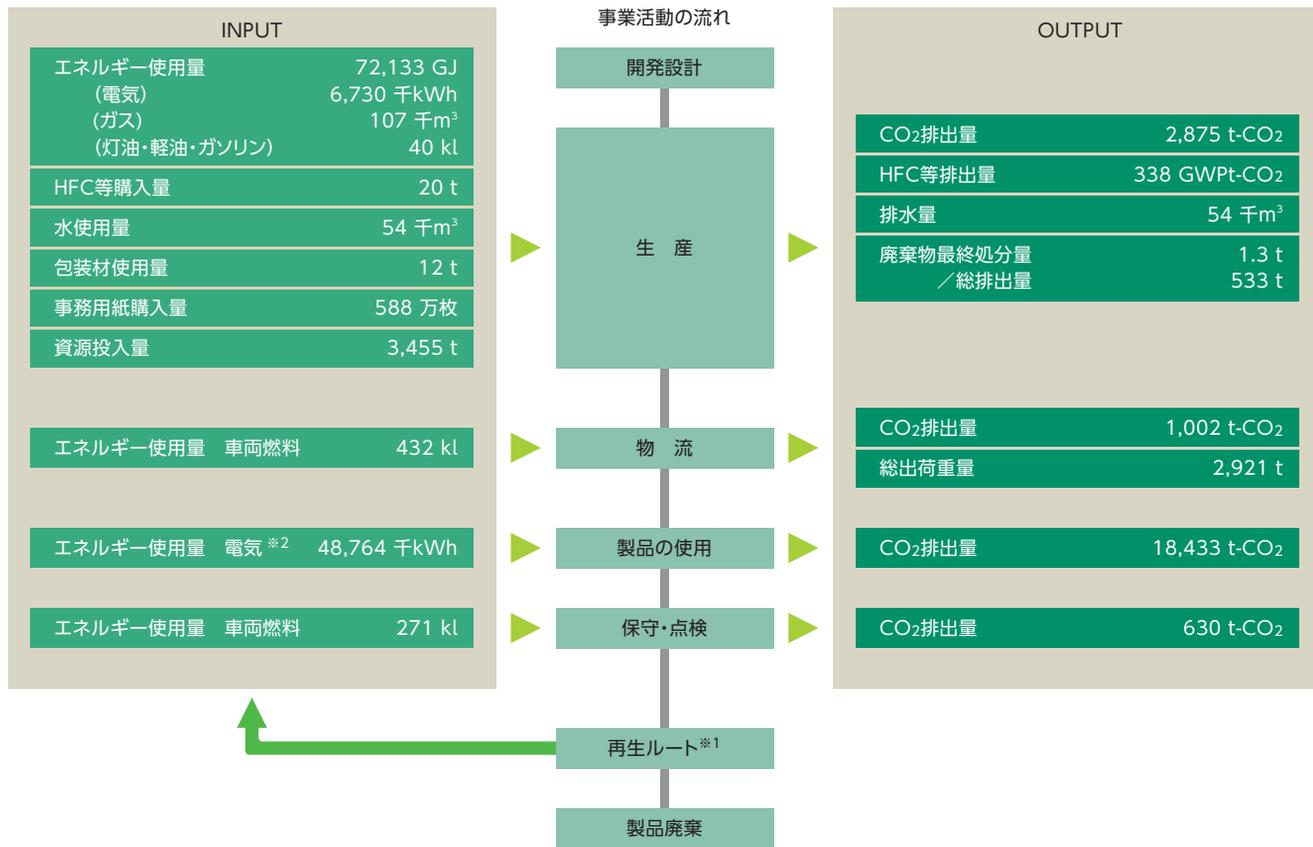
エスペックミックが施工したビオトープ

### ●最近の受賞歴

- 2013年 3月 モデルフォレスト運動推進表彰  
「京都モデルフォレスト協会理事長賞」受賞
- 2013年 1月 第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」受賞(恒温恒湿器プラチナス)シリーズ
- 2012年 2月 eco検定アワード2011「エコピープル大賞」受賞
- 2012年 1月 eco japan cup 2011「カルチャー部門  
エコミュージック審査員応援賞」受賞
- 2011年 12月 第8回「エコプロダクツ大賞」  
審査委員長特別賞(奨励賞)

# 事業活動の マテリアルバランス

■ 2013年度実績



※1 エスペック製品リサイクルサービス  
 ※2 製品の使用に伴うエネルギーの使用は2013年度主力製品出荷実績からの試算

■ 算出根拠

換算係数	熱量換算	CO <sub>2</sub> 換算
①電力	千kWh=9.82 GJ	千kWh=0.378 t-CO <sub>2</sub>
②長田野ガス	千m <sup>3</sup> =45.0 GJ	千m <sup>3</sup> =2.29 t-CO <sub>2</sub>
③都市ガス	千m <sup>3</sup> =41.1 GJ	千m <sup>3</sup> =2.11 t-CO <sub>2</sub>
④LPガス	千m <sup>3</sup> =100 GJ	千m <sup>3</sup> =5.98 t-CO <sub>2</sub>
⑤灯油	1kl=36.7 GJ	1kl=2.49 t-CO <sub>2</sub>
⑥軽油	1kl=38.2 GJ	1kl=2.62 t-CO <sub>2</sub>
⑦ガソリン	1kl=34.6 GJ	1kl=2.32 t-CO <sub>2</sub>

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

# 実績データ

## ■ 2013年度 サイト別データ

	本 社	福知山工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	大阪オフィス	全国の営業所・ 事業所計 17事業所合計	豊田試験所	刈谷試験所	ISO14001 一括取得対象 22事業所
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業専用地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—	—
主な業務・生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の販売、開発、設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の製造	環境試験装置・電子 デバイス装置等の販売、 メンテナンス(点検・保守) 受託試験 製品レンタル	技術開発拠点 および受託試験	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	受託試験 製品レンタル	受託試験 製品レンタル	—
排出物の発生量(総量)※1	12.2 t	412.5 t	15.0 t	9.3 t	14.3 t	65.5 t	2.9 t	1.5 t	533.1 t
産業廃棄物量	12.2 t	84.5 t	4.7 t	5.8 t	7.5 t	53.9 t	0.7 t	—	169.2 t
事業系一般廃棄物量	12.1 t	68.4 t	6.3 t	0.8 t	0.7 t	4.5 t	0.6 t	0.1 t	93.5 t
有価物	—	259.6 t	3.9 t	2.7 t	6.1 t	12.4 t	1.6 t	1.4 t	287.8 t
埋立物	0.1 t	1.0 t	0.0 t	0.0 t	0.1 t	0.0 t	—	—	1.3 t
電力	442 千kWh	4,399 千kWh	2,822 千kWh	2,628 千kWh	127 千kWh	222 千kWh	3,283 千kWh	1,803 千kWh	15,725 千kWh
事務用紙購入量	251万枚※2	212 万枚	9 万枚	18 万枚	23 万枚	172 万枚	4 万枚	—	588 万枚
ガス使用量	541 m <sup>3</sup>	61,592 m <sup>3</sup>	—	44,222 m <sup>3</sup>	20 m <sup>3</sup>	1,337 m <sup>3</sup>	—	12 m <sup>3</sup>	107,724 m <sup>3</sup>
社有車保有台数	7 台	6 台	14 台	3 台	27 台	137 台	3 台	—	197 台
うち、ハイブリッドカー	1 台	3 台	3 台	1 台	4 台	18 台	1 台	—	31 台
燃料使用量(ガソリン)	14 kl	6 kl	16 kl	3 kl	35 kl	236 kl	2 kl	—	312 kl
走行距離	191,756km	97,463 km	247,412 km	47,109 km	524,705 km	2,720,745 km	31,611 km	—	3,994,582 km
順法への対応	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合
地域からのクレームなど	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

※1 お客さま先での作業時発生分を含む  
 ※2 寝屋川ビジネスセンター分を含む

## ■ 2013年度 全社PRTR実績

(単位:t)

第1種指定化学物質の名称	キシレン	トルエン	ヒドラジン	ノルマルヘキサン
第1種指定化学物質の番号	80	300	333	392
年間取扱量	0.004	0.017	0.023	0.001
製品への含有分(自主測定項目)	—	—	—	0.001
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	—	—	—
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.003	0.017	—
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 二)以外	—	—	—
	ニ) 当該事業所における埋立処分	—	—	—
移動量	イ) 下水道への移動	—	—	0.023
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ)以外	0.001未満	—	—

※ 第1種指定化学物質のうち、年間取扱量が1kg以上のものを記載しています

# 環境会計

集計範囲：エスペック株式会社  
対象期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日

## ■環境保全コスト

(単位：千円)

分類	主な取り組みの内容	2012年度		2013年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）	43,146	51,650	9,259	44,297
内訳	①公害防止コスト	—	118	1,646	370
	②地球環境保全コスト	43,146	36,456	7,614	31,332
	③資源循環コスト	—	15,075	—	12,595
(2)	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）	—	—	—	—
(3)	管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	—	63,354	—	64,349
(4)	研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	—	339,231	—	247,856
(5)	社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）	—	2,391	—	1,899
(6)	環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）	—	—	—	—
合計		43,146	456,625	9,259	358,400

(単位：千円)

項目	2012年度	2013年度
当該期間の投資額の総額	654,546	706,135
当該期間の研究開発費の総額	1,116,381	924,306

## ■環境保全対策に伴う経済効果

(単位：千円)

効果の内容		金額
収益	リサイクルにより得られた収入額	8,952
費用削減	省エネルギーによる費用削減	5,462

## ■環境保全効果

効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2012年度	2013年度
	電力消費量(千kWh)	6,241	5,877
	削減量(対前年比)(千kWh)	431.2	364.2
	原単位(千kWh/億円)	26.8	24.7
	原単位での削減率(対前年比)(%)	1.2	7.9
(2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2012年度	2013年度
	発生総量(t)	2.3	1.3
	削減量(対前年比)(t)	-0.5	1.0
	原単位(kg/億円)	9.9	5.5
	原単位での削減率(対前年比)(%)	-37.1	44.7
	売上高(億円)	232.7	237.9

※1 一付きの値は増加分

※2 電力は、生産部門+事務所電力の合計（研究開発と受託試験分は除く）

※3 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

## 会社概要 (平成26年7月31日現在)

創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	68億9,500万円
証券市場	東京証券取引所 第一部
発行済株式総数	23,259,679株(自己株式を除く)
従業員数	1,362名(連結) 830名(単体)

## 営業概況 (平成26年3月期)

	(単位:百万円)	
	連結	単体
売上高	32,099	23,785
営業利益	2,077	1,447
経常利益	2,370	1,873
当期純利益	1,570	1,268
純資産	32,811	30,394
総資産	43,031	38,327

## 事業所 (平成26年9月30日現在)

**本社**  
530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6  
Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500

**首都圏オフィス**  
105-0004 東京都港区新橋5-14-10  
新橋スクエアビル6F  
Tel:03-6402-3591 Fax:03-6402-3594

**大阪オフィス**  
572-0072 大阪府寝屋川市太閤東町15-8  
Tel:072-834-1191 Fax:072-834-7755

**神奈川オフィス**  
211-0041 川崎市中原区下小田中1-29-12  
Tel:044-740-8450 Fax:044-797-0073

**宇都宮テクノコンプレックス**  
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1  
Tel:028-667-8730 Fax:028-667-8733

**神戸R&Dセンター**  
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5  
Tel:078-951-0960 Fax:078-951-0967

**福知山工場**  
620-0853 京都府福知山市長田野町1-7  
Tel:0773-27-3131 Fax:0773-27-1132

**仙台営業所**  
981-3135 仙台市泉区八乙女中央2-2-22  
Tel:022-218-1891 Fax:022-218-1894

**つくば営業所**  
305-0035 茨城県つくば市松代1-11-10  
Tel:029-854-7805 Fax:029-854-7785

**熊谷営業所**  
360-0833 埼玉県熊谷市広瀬240-3  
Tel:048-520-2360 Fax:048-525-7865

**西東京営業所**  
186-0011 東京都国立市谷保6049  
Tel:042-501-2571 Fax:042-501-2573

**静岡営業所**  
422-8036 静岡県駿河区敷地2-26-10  
Tel:054-237-8000 Fax:054-238-3441

**名古屋営業所**  
465-0095 名古屋市名東区高社2-250  
Tel:052-777-2551 Fax:052-777-2575

**金沢営業所**  
920-8203 金沢市鞍月3-115  
Tel:076-268-1891 Fax:076-268-1893

**滋賀営業所**  
520-3234 滋賀県湖南市中央1-44-1  
市兵衛ビル1F  
Tel:0748-72-5077 Fax:0748-72-5070

**兵庫営業所**  
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5  
(神戸R&Dセンター内)  
Tel:078-950-1771 Fax:078-950-1772

**広島営業所**  
731-0103 広島市安佐南区緑井1-12-25  
Tel:082-830-5211 Fax:082-876-5050

**福岡営業所**  
812-0006 福岡市博多区上牟田1-28-16  
コスモプレインビルE室  
Tel:092-471-0932 Fax:092-474-3500

**厚木サービスプラント**  
259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬36-5  
Tel:0463-94-9433 Fax:0463-94-6542

**新居浜サービスプラント**  
792-0812 愛媛県新居浜市坂井町1-1-32  
Tel:0897-31-3160 Fax:0897-36-3180

**宇都宮試験所**  
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1  
(宇都宮テクノコンプレックス内)  
Tel:028-667-8735 Fax:028-667-8738

**豊田試験所**  
471-0844 愛知県豊田市聖心町3-44-1  
Tel:0565-25-3364 Fax:0565-25-3365

**刈谷試験所**  
448-0034 愛知県刈谷市神明町1-3  
Tel:0566-62-8380 Fax:0566-62-8385

**神戸試験所**  
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5  
(神戸R&Dセンター内)  
Tel:078-951-0961 Fax:078-951-0967

## エスペックグループ〈国内〉

**エスペックテストシステム株式会社**  
658-0045 神戸市東灘区御影石町1-6-6  
Tel:078-856-5181 Fax:078-856-5186

**エスペック九州株式会社**  
802-0062 北九州市小倉北区片野新町2-6-15  
Tel:093-941-1731 Fax:093-921-2822

**エスペックミック株式会社**  
480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1  
Tel:0587-95-6369 Fax:0587-95-4833

## エスペックグループ〈海外〉

**ESPEC NORTH AMERICA, INC.**  
4141 Central Parkway, Hudsonville, MI 49426, U.S.A.  
Tel:(1) 616-896-6100 Fax:(1) 616-896-6150

**SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.**  
1518 Hao, Hua xin Zhen Hua zhi Road, Qing pu Qu, Shanghai, 201708, P.R. China  
Tel:(86) 21-69791178 Fax:(86) 21-69791213

**ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD.**  
F5, ShenHua Financial Building, NO 1 NingBo Road, Huangpu District Shanghai, 200002, P.R. China  
Tel:(86) 21-51036677 Fax:(86) 21-63372237

**ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.**  
Room 106, Building 8, No. 3000 Longdong Avenue, Pudong New Area, Shanghai, 201203, P.R. China  
Tel:(86) 21-68798008 Fax:(86) 21-68798088

**ESPEC TEST EQUIPMENT (GUANGDONG) CO., LTD.**  
1-01, Meide 2 road, Pingqian qiche gongye yuan nei, Nan sha Qu, Guangzhou City, Guangdong, 511462, P.R. China  
Tel:(86) 20-84528102 Fax:(86) 20-84528107

**ESPEC (CHINA) LIMITED**

**ESPEC KOREA CORP.**  
452-3, Hyeongok-Ri, Chongbuk-Myeon, Pyeongtaek-City, Gyeonggi-do 451-831, Korea  
Tel:(82) 31-686-8523 Fax:(82) 31-686-8526

**ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN. BHD.**  
No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, 43300, Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan Malaysia  
Tel:(60) 3-8945-1377 Fax:(60) 3-8945-1287

**ESPEC EUROPE GmbH**  
Dachauer Strasse 11, D-80335, München, Germany  
Tel:(49) 89-1893-963-0 Fax:(49) 89-1893-963-79

■ CSRレポート企画・編集発行

**エスペック株式会社** コーポレートコミュニケーション部  
CSRレポート編集委員会

■ CSRレポートについてのお問い合わせ窓口

**エスペック株式会社**  
Tel:06-6358-4744 Fax:06-6358-4795  
E-Mail:csr@espec.co.jp

## エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6  
Tel: 06-6358-4741 Fax: 06-6358-5500  
<http://www.espec.co.jp/>



エスペックは気候変動キャンペーン  
「Fun to Share」に賛同しています

